

## (5) 新たな拠点病院制度の検討

- これまで、がん対策推進協議会をはじめ、多くの場において、がん診療連携拠点病院制度の見直しについての議論がされてきた。
- がん医療の均てん化を進めていくためにも、各都道府県において、2次医療圏に一か所程度の「拠点病院もしくはそれに準ずる病院」は必要とされている。
- 一方で、現行の拠点病院制度では、2次医療圏に一か所程度という数の制限があるため、適切ながん診療を行っているにもかかわらず、「拠点病院」の指定を受けることができない状況もある。
- また、同じ「拠点病院」であるにもかかわらず、がん診療の状況は異なっており、診療の実態を反映した指定を求められている。

## 1. 拠点病院空白区への対応

- 空白2次医療圏の特徴
  - A) 地域中核病院が要件を満たしていない
  - B) 大都市近郊で流出患者が多い

# 拠点病院空白区への対応

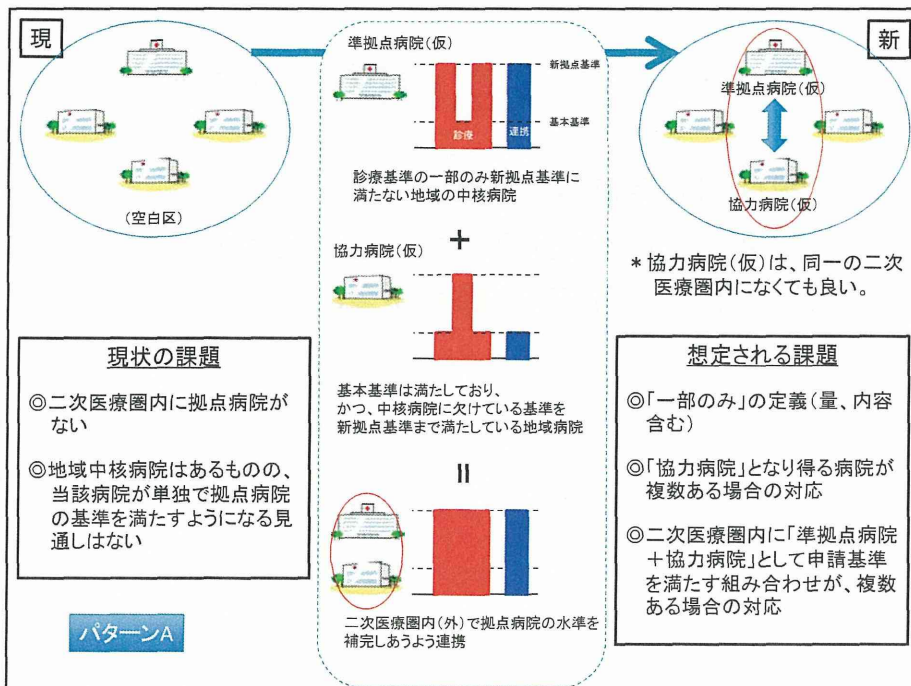
## A案 クラスター制度の導入

### A) クラスター型

1. 拠点病院に近い基準の病院がある場合
  - 2次医療圏内(外)の複数の医療機関で基準に到達
  - 事例—和歌山
2. 拠点病院に近い基準の病院がない場合
  - 隣接する拠点病院をもって代替し、圏内に協力病院を置く

### B) 大都市近郊

- 東京、福岡のみ？

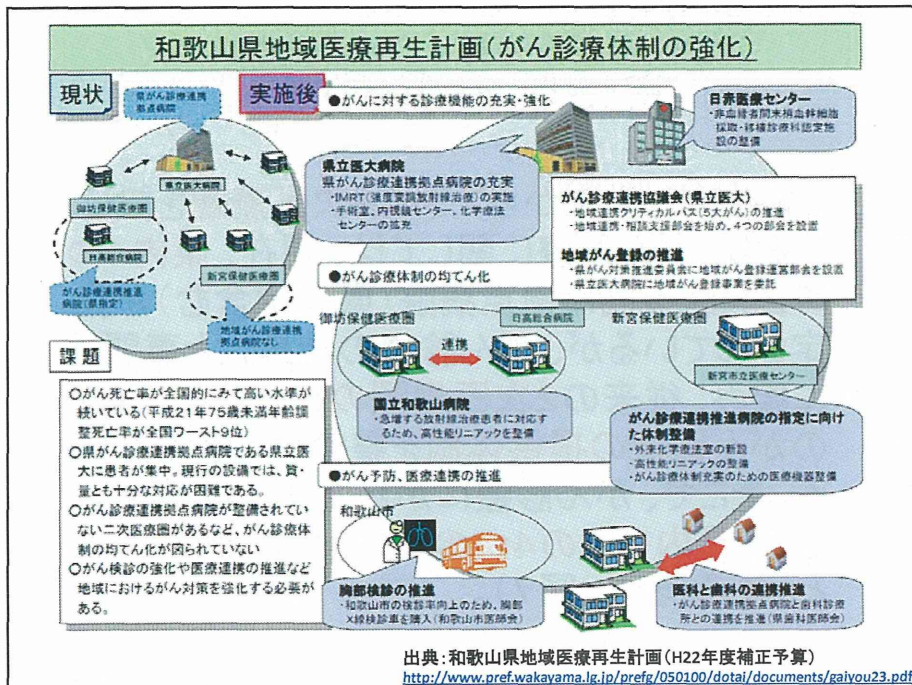


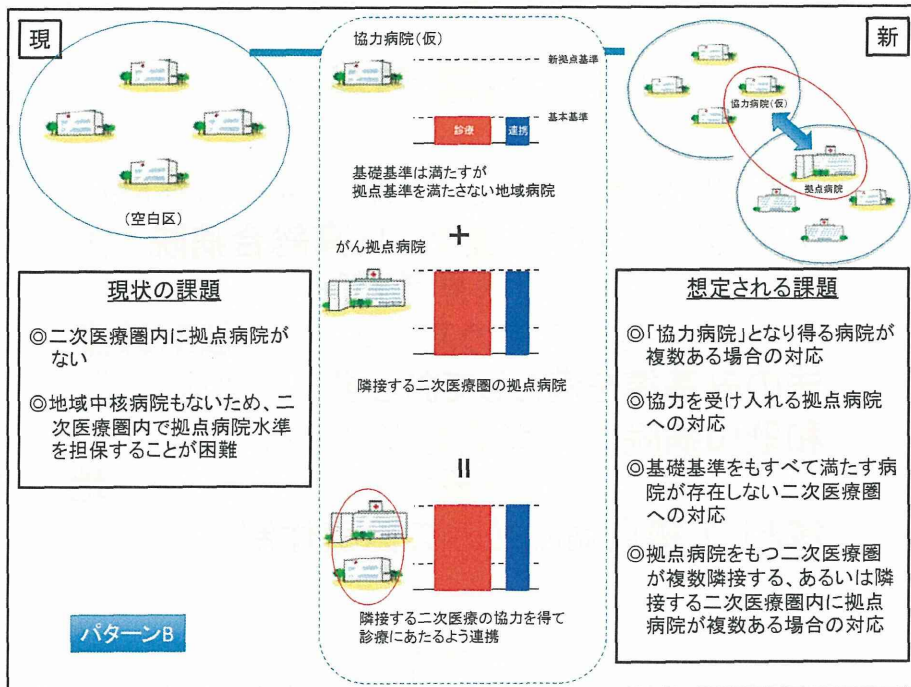
## 和歌山県の事例

- 御坊医療圏は現在、がん診療拠点病院に準ずる県独自の制度で、**日高総合病院**を第1号のがん診療連携推進病院に指定。同病院は国の拠点病院の基準のうち、**放射線療法のみ基準を満たしておらず**、県は来年度、**和歌山病院**の高度放射線治療機器をバージョンアップし、日高病院と連携することで**地域として拠点病院並みの医療体制充実を目指す**。

出典：日高新報 Web版

<http://www.hidakashimpo.co.jp/news/2012/02/post-1235.html>





## 宮崎県の事例(1)

- 本県では、従来から**7つの二次医療圏**を設けており、がん医療に関しては、現在、**県内4つの二次医療圏**に拠点病院(県指定含む)が指定されているが、がん診療の特殊性と専門性に鑑み、従来の**二次医療圏の枠を超えた形でのがん医療の提供体制を整備する必要がある**。そこで、がん診療にかかわる医療圏域として、**県内を次の4つのブロックに設定することとする(表2、図7)**。

出典: 宮崎県がん対策推進計画

<http://www.pref.miyazaki.lg.jp/parts/000099525.pdf>

## 宮崎県の事例(2)

(表2) がん医療圏と拠点病院

| 2次医療圏   | がん医療圏   |
|---------|---|
| 宮崎県北部 ♪ | ♪・宮崎県北がん医療圏 (県立延岡病院)<br>#・宮崎県央がん医療圏(宮崎大学医学部附属病院)<br>(県立宮崎病院)<br>・宮崎県南がん医療圏 (県立日南病院)<br>♪・宮崎県西がん医療圏 (国立病院機構都城病院) |
| 日向入郷 ♪  |   |
| 西都児湯 #  |   |
| 宮崎東諸県 # |   |
| 日南串間    |   |
| 都城北諸 ♪  |   |
| 西 諸 ♪   |   |

※宮崎大学医学部附属病院、県立宮崎病院、  
 国立病院機構都城病院は「国指定」  
 ※県立延岡病院と県立日南病院は「県指定」

出典:宮崎県がん対策推進計画  
<http://www.pref.miyazaki.lg.jp/parts/000099525.pdf>

## 宮崎県の事例(3)



出典:宮崎県がん対策推進計画  
<http://www.pref.miyazaki.lg.jp/parts/000099525.pdf>

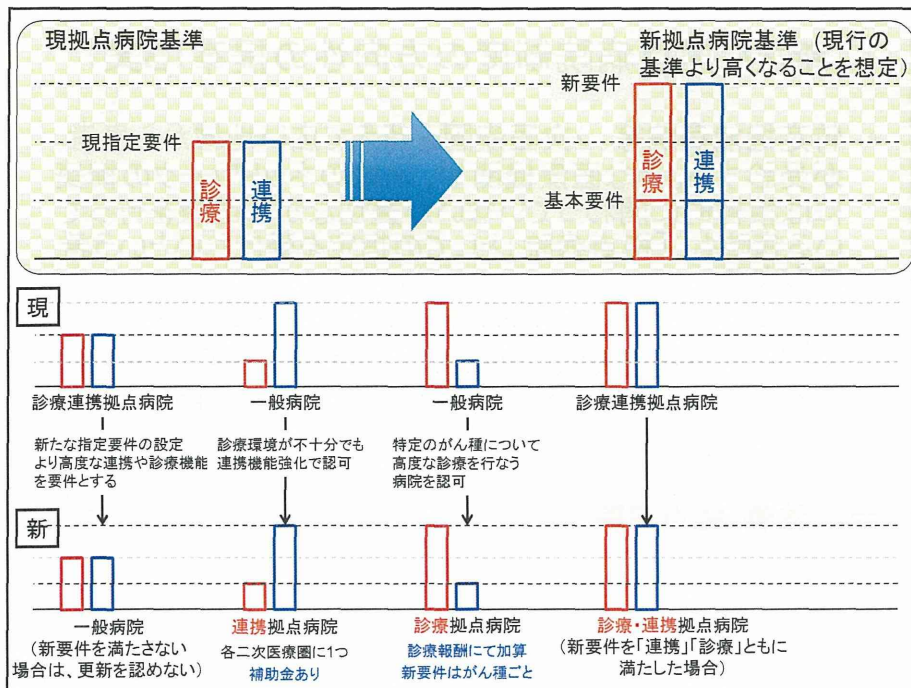
## 2. 都市部などがん診療を行っている医療機関が、2次医療県内に多数ある地域への対応

- 現行の拠点病院制度では、2次医療圏に一つか所程度という数の制限があるため、適切ながん診療を行っているにもかかわらず、「拠点病院」の指定を受けられない状況がある。

### 診療実績のある「非拠点病院」への対応

#### B案 診療・連携分割制度の導入

- 連携機能、診療機能について、それぞれに「新要件」と「基本要件」を定める。
  - 何らかの拠点病院として指定を受ける以上は、必ず両方の機能の「基本要件」を満たす必要がある。
  - 加えて、連携機能、診療機能のいずれかの「新要件」を満たした病院を拠点病院とする。
- 例 「連携拠点病院」「診療拠点病院」「診療・連携拠点病院」



## 新たな拠点病院制度の方向性の提案(B案)

- 現在の拠点病院制度は「地域のがん診療の連携の調整を行う拠点」ということを目指している一面があり、今後更なる「連携の要」としての役割の充実が求められる。

例 機能強化事業「がん診療連携拠点病院ネットワーク事業」や「在宅緩和ケア地域連携事業」など

- これらは、診療報酬などで経費を賄うことができない事業であり、今後も「補助金」での対応が必要。

⇒ 「連携」拠点病院

### 新たな拠点病院制度の方向性の提案(B案)

- 特定機能病院等、2次医療圏を超えて広い地域から患者が受診するような医療機関や、地域のネットワークの構築には積極的に関わっていないが適切ながん医療を行っている病院も、「拠点病院」としての指定を受けたいという希望がある。
- ある一定の基準のがん医療を行っていることについて、政府が示す基準を満たしたものについて指定を行う。診療に関する要件を満たすための経費については、「診療報酬」で対応していく。

⇒ 「診療」拠点病院

### 新たな拠点病院制度の方向性の提案(B案)

- 診療機能については、拠点病院によって、がん種ごとに医療の提供状況が異なっている。  
例 拠点病院ではあるが、肺がんの手術ができない
- ある特定のがん種については、地域の中で中核的役割を担ってがん診療を行っている施設があるが、現在は拠点病院として指定をされていない病院が存在する。  
例 拠点病院ではないが、地域の肺がん患者の多くが、その病院を受診している。



## 新たな拠点病院制度の方向性の提案(B案)

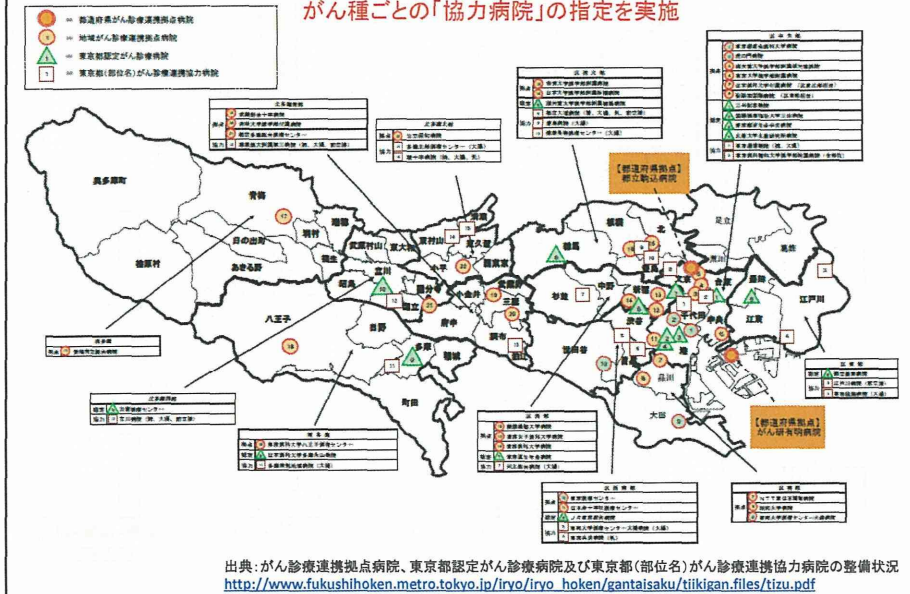
- 診療機能については、5大がんを中心に、がん種ごとに基準を示し、基準を満たしたがん種を明記することとしてはどうか。

例 がん診療拠点病院(胃がん、大腸がん、肝臓がん、乳がん)など

- 明記可能ながん種については、当面は5大がんのみ、または罹患者数の多い前立腺がんと子宮がんを追加した7つのがん種とし、今後、拡大してはどうか。

## 東京都の拠点病院体制

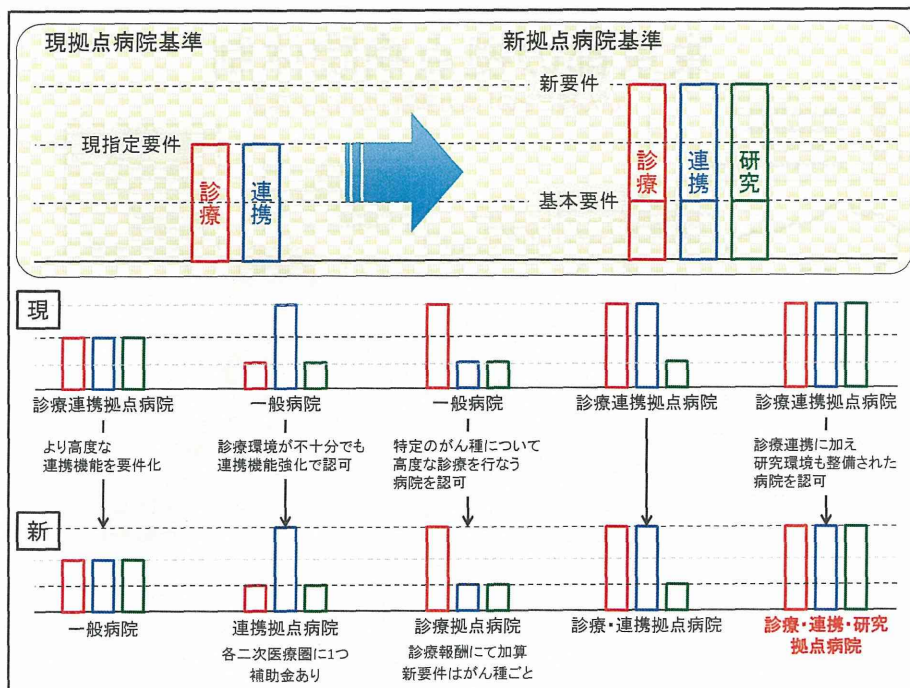
がん種ごとの「協力病院」の指定を実施



## 「研究」を加味した 新たな拠点病院制度の方向性の提案

- 拠点病院を中心に、がんの臨床研究を実施していくネットワークの構築を図るなど、拠点病院に対して、研究の側面から新たな取り組みに協力が求められる。
- しかし、すべての拠点病院が研究に参加が求められているわけではない。ある一定の基準を満たすなど一部の拠点病院にとどまるものである。
- 拠点病院にとっては新しい取り組みである一方、診療報酬などで経費を賄うことができない事業になるため、「補助金」や「研究費」での対応が必要。

⇒ 「研究」拠点病院



## (6) 拠点病院の評価方法の検討

- がん拠点病院の実際の状況の評価するために、訪問による評価の必要性が多く場で議論となっている。
- 訪問評価は、医療の提供体制の「質の評価」、現況報告の「報告内容の確認」が期待される。

### 【本研究班の取り組み】

がん拠点病院を訪問評価していくことの実施可能性について、以下の2つの内容から検討を行う。

- 拠点病院への訪問評価をおこなうにあたり、モデルとして緩和ケアの実施状況の評価について行い、外部の専門家によるピアレビューの実行可能性を検討する。  
訪問評価を受ける病院に対して、評価結果を還元し、医療水準の向上につながるように配慮し、拠点病院の支援方法についても検討する。
- 長野県取り組みを参考とし、拠点病院の実地調査の実施可能性、全国的な実地調査の支援体制のあり方について検討する。

## 1. 施設訪問による緩和ケア提供体制を評価する方法に関する研究

### 【方法】

- 緩和ケアを専門とする多職種メンバーが施設を訪問し、緩和ケア機能を評価し、ピアレビューの実施可能性を検討する

### 【事前セルフレビュー内容】

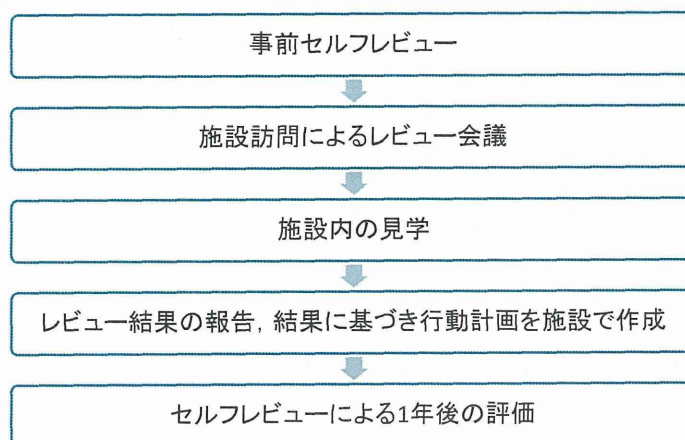
- がん診療連携拠点病院の指定要件  
「緩和ケア」に関する項目
- 緩和ケアチームの基準
- がん集学的治療財団が厚生労働省委託事業として実施した「医療水準調査」の項目

### 【訪問によるレビュー項目】

1. 下記の項目についての緩和ケア提供体制等
  - 施設全体の緩和ケア提供体制
  - 緩和ケアチームの活動
  - 病棟の緩和ケア提供体制
  - 外来の緩和ケア提供体制
  - 相談支援センターとの緩和ケアに関する協働体制
  - 院内の緩和ケアに関する協働体制
  - 緩和ケアに関する地域連携
  - 緩和ケアに関する教育機能
  
2. 各職種で確認すべき項目
  - 身体症状緩和担当医師
  - 精神症状緩和担当医師
  - 看護師
  - 薬剤師

## 施設訪問による緩和ケア提供体制を 評価する方法に関する研究

### 【ピアレビュープロセス】



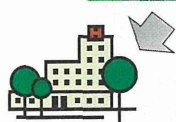
## 2. 長野県の機能評価(現地調査)の取り組み

長野県では、がん診療連携拠点病院の格差是正と質の向上を目的としたピア・レビュー制度を平成20年度より実施している。



### 評価委員による評価

- ・評価委員は、医師会代表者、がん診療従事者、がん診療を受ける者、学識経験者。
- ・がん診療連携拠点病院の整備指針を基準に、現況報告と訪問調査により評価する。
- ・報告書が作成され、改善計画の提出を求める



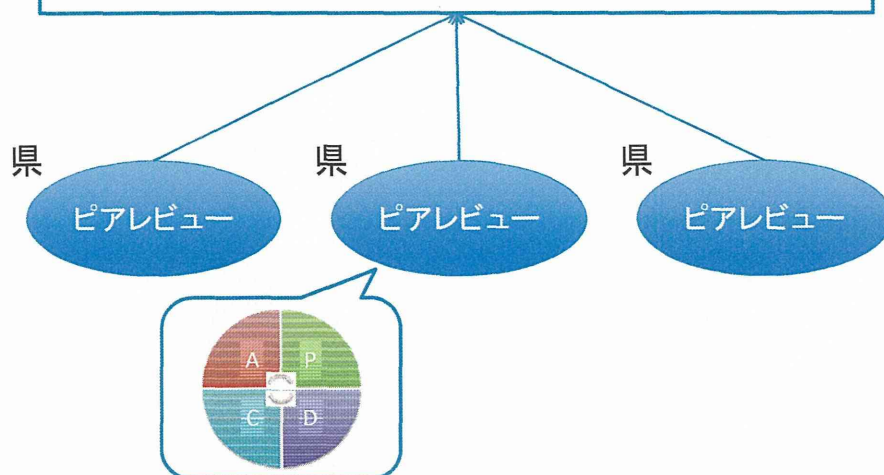
### 拠点病院や患者会の参加

- ・訪問調査を拠点病院や患者会に開放する。
- ・評価をのぞく全てのプロセスに参加する。
- ・訪問時に情報・意見交換を行う

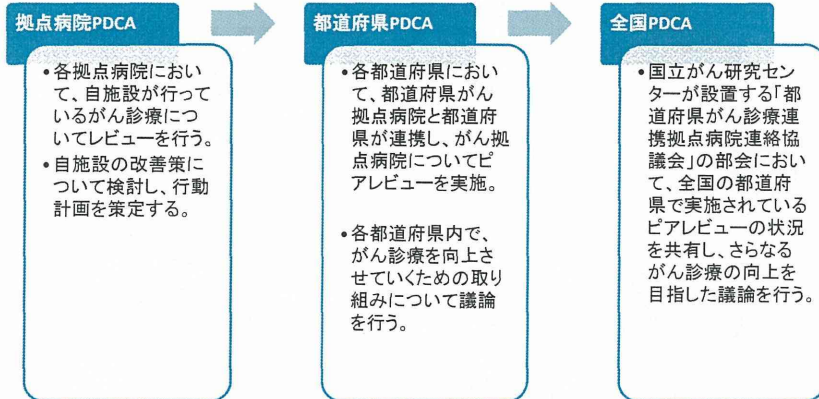
- ・1年に2病院を訪問調査
- ・訪問は90分(病院プレゼンテーション、部署訪問、質疑応答)
- ・事務局は県の健康福祉部健康長寿課
- ・委員の任期は2年

都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会に「部会」を設置

- ・ 全国でのピアレビューの実施状況を共有
- ・ 改善策の検討



## 全国のがん拠点病院の医療提供体制の整備を 着実に進めていくためのPDCAサイクルを構築



## Ⅱ．研究成果の刊行に関する一覧表

II. 研究成果の刊行に関する一覧表

【書籍（日本語）】

平成22年度

| 著者氏名           | 論文タイトル名                              | 書籍全体の編集者名             | 書籍名                                  | 出版社名                  | 出版地 | 出版年  | ページ     |
|----------------|--------------------------------------|-----------------------|--------------------------------------|-----------------------|-----|------|---------|
| 南博信            | 高齢者の薬物動態・薬力学                         | 南博信                   | 抗悪性腫瘍薬コンサルトブック                       | 南江堂                   | 東京  | 2010 | 25-27   |
| 南博信            | 臓器障害時の薬物動態・薬力学                       | 南博信                   | 抗悪性腫瘍薬コンサルトブック                       | 南江堂                   | 東京  | 2010 | 28-30   |
| 南博信            | ソラフェニブ                               | 南博信                   | 抗悪性腫瘍薬コンサルトブック                       | 南江堂                   | 東京  | 2010 | 56-60   |
| 南博信            | スニチイブ                                | 南博信                   | 抗悪性腫瘍薬コンサルトブック                       | 南江堂                   | 東京  | 2010 | 61-65   |
| 南博信            | ドセタキセル                               | 南博信                   | 抗悪性腫瘍薬コンサルトブック                       | 南江堂                   | 東京  | 2010 | 249-253 |
| 木澤義之           | 緩和医療教育                               | 日本医学教育学会編             | 医学教育白書 2010年版(7~10)                  | 篠原出版新社                | 東京  | 2010 | 221-225 |
| 木澤義之, 森田達也 (編) | がん緩和ケアガイドブック                         | 日本医師会監修               | がん緩和ケアガイドブック                         | 青海社                   | 東京  | 2010 | —       |
| 山本 亮, 木澤義之     | 担がん患者さんの身体診察                         | 大西弘高編                 | 困りがちなあんな場面こんな場面での身体診察のコツ             | 羊土社                   | 東京  | 2010 | 98-106  |
| 志真泰夫, 木澤義之 (編) | がん診療にたずさわる医師に対する緩和ケア研修会ハンドブック2009年度版 | 日本緩和医療学会, 緩和ケア研修会推進部会 | がん診療にたずさわる医師に対する緩和ケア研修会ハンドブック2009年度版 | 日本緩和医療学会, 緩和ケア研修会推進部会 | 東京  | 2010 | —       |
| 的場元弘           | 膵癌診療ポケットガイド                          |                       | 膵癌診療ポケットガイド                          | 医学書院                  | 東京  | 2010 | —       |
| 的場元弘           | がん患者のための体と心の緩和ケア                     | 的場元弘                  | がん患者のための体と心の緩和ケア                     | 社会福祉法人NHK厚生文化事業団      | 東京  | 2010 | —       |



| 著者氏名 | 論文タイトル名                 | 書籍全体の編集者名   | 書籍名                 | 出版社名                  | 出版地 | 出版年  | ページ     |
|------|-------------------------|---|---------------------|-----------------------|-----|------|---------|
| 的場元弘 | がん疼痛の薬物療法に関するガイドライン     | 特定非営利法人日本緩和医療学会、緩和医療ガイドライン作成委員会                   | がん疼痛の薬物療法に関するガイドライン | 金原出版                  | 東京  | 2010 | —       |
| 平井啓  | 統合的ながんのケアにおける「こころと体」の医学 | Donald I. Abrams, Andrew T. Weil/<br>伊藤 壽記、上島悦子監訳 | がんの統合医療             | メディカル・サイエンス・インターナショナル | 東京  | 2010 | 246-261 |

平成23年度

| 著者氏名             | 論文タイトル名                          | 書籍全体の編集者名                         | 書籍名                              | 出版社名                 | 出版地 | 出版年  | ページ   |
|------------------|----------------------------------|-----------------------------------|----------------------------------|----------------------|-----|------|-------|
| 加藤雅志、他           | 診療報酬の変遷と現状—病院・緩和ケア病棟             | 「ホスピス緩和ケア白書」編集委員会                 | ホスピス緩和ケア白書2012                   | (財)日本ホスピス・緩和ケア研究振興財団 | 東京  | 2012 | 90-93 |
| 下村裕見子            | 精神科地域連携クリティカルパス開発にむけて            | 精神科クリティカルパス論 no.62                | 精神医療                             | 批評社                  | 東京  | 2011 | 33-43 |
| 高山智子、若尾文彦、的場元弘、他 | (患者必携) もしも、がんが再発したら 本人と家族に伝えたいこと | 国立がん研究センターがん対策情報センター              | (患者必携) もしも、がんが再発したら 本人と家族に伝えたいこと | 英治出版                 | 東京  | 2012 | —     |
| 的場元弘、新城拓也、田中桂子、他 | がん患者の消化器症状の緩和に関するガイドライン2011年版    | 特定非営利活動法人日本緩和医療学会 緩和医療ガイドライン作成委員会 | がん患者の消化器症状の緩和に関するガイドライン2011年版    | 金原出版                 | 東京  | 2011 | —     |

| 著者氏名                         | 論文タイトル名                       | 書籍全体の編集者名                         | 書籍名                           | 出版社名 | 出版地 | 出版年  | ページ |
|------------------------------|-------------------------------|-----------------------------------|-------------------------------|------|-----|------|-----|
| 的場元弘、<br>田中桂子、<br>新城拓也、<br>他 | がん患者の呼吸器症状の緩和に関するガイドライン2011年版 | 特定非営利活動法人日本緩和医療学会 緩和医療ガイドライン作成委員会 | がん患者の呼吸器症状の緩和に関するガイドライン2011年版 | 金原出版 | 東京  | 2011 | —   |

平成 24 年度

| 著者氏名 | 論文タイトル名       | 書籍全体の編集者名                           | 書籍名             | 出版社名 | 出版地 | 出版年  | ページ   |
|------|---------------|-------------------------------------|-----------------|------|-----|------|-------|
| 木澤義之 | 緩和ケア外来の動向と現状  | 日本ホスピス・緩和ケア・研究振興財団「ホスピス緩和ケア白書」編集委員会 | ホスピス緩和ケア白書 2012 | 青海社  | 東京  | 2012 | 28-29 |
| 木澤義之 | 緩和ケアチームの動向と現状 | 日本ホスピス・緩和ケア・研究振興財団「ホスピス緩和ケア白書」編集委員会 | ホスピス緩和ケア白書 2012 | 青海社  | 東京  | 2012 | 1-5   |

【雑誌 (外国語)】

平成 22 年度

| 発表者氏名  | 論文タイトル名  | 発表誌名             | 巻号    | ページ     | 出版年  |
|--|--|------------------|-------|---------|------|
| Fujiwara Y, <u>Mina</u><br><u>mi H.</u>  | An overview of the recent progress in irinotecan pharmacogenetics.                       | Pharmacogenomics | 11    | 391-406 | 2010 |
| Nasu J, Hori S, Asagi A, Nishina T, Ikeda Y, <u>Tanimizu</u><br><u>M.</u> , Iguchi H, Aogi K, Kurita A, Nishimura R. | A case of small undifferentiated intramucosal gastric cancer with lymph node metastasis. | Gastric Cancer.  | 13(4) | 264-266 | 2010 |

| 発表者氏名  | 論文タイトル名  | 発表誌名  | 巻号    | ページ     | 出版年  |
|--|--|---|-------|---------|------|
| Ise Y, Morita T, Mae hori N, Kutsuwa M, Shiokawa M, <u>Kizawa Y</u> .  | Role of the community pharmacy in palliative care: A nationwide survey in Japan.   | J Palliat. Med.                                   | 13(6) | 733-737 | 2010 |
| Hisanaga T, Shinjo T, Morita T, Nakajima N, Ikenaga M, Tanimizu M, <u>Kizawa Y</u> , Maeno T, Shima Y, Hyodo I.  | Multicenter prospective study on efficacy and safety of octreotide for inoperable malignant bowel obstruction.   | Jpn J Clin Oncol.                                 | 40(8) | 739-745 | 2010 |
| Takemura Y, Yamashita A, Horiuchi H, Furuya M, Yanase M, Niikura K, Imai S, Hatakeyama N, Kinoshita H, Tsukiyama Y, Senba E, <u>Matoba M</u> , Kuzumaki N, Yamazaki M, Suzuki T, Narita M. | Effects of gabapentin on brain hyperactivity related to pain and sleep disturbance under a neuropathic pain-like state using fMRI and brain wave analysis. | Synapse   | 65    | 668-676 | 2011 |
| Arai H, <u>Hirai K</u> , Harada K, and Tokoro A.   | Physical activity and psychological adjustment in Japanese advanced lung cancer patients in chemotherapy: The feasibility of intervention.                 | International Journal of Sport and Health Science | 8     | 15-21   | 2010 |
| Yoshida S, Otani H, <u>Hirai K</u> , et al   | A qualitative study of decision-making by breast cancer patients about telling their children about their illness.   | Support Care Cancer                               | 18(4) | 439-447 | 2010 |
| Okamoto T, Ando M, Morita T, <u>Hirai K</u> , Kawamura R, Miyashita M, Sato K, Shima Y.  | Religious care required for Japanese terminally ill patients with cancer from the perspective of bereaved family members.                                  | Am J Hosp Palliat Med                             | 27(1) | 50-54   | 2010 |
| Ando M, Kawamura R, Morita T, <u>Hirai K</u> , Miyashita M, Okamoto T, Shima Y   | Value of religious care for relief of psycho-existential suffering in Japanese terminally ill cancer patients: the perspective of bereaved family members. | Psychooncology                                    | 19(7) | 750-755 | 2010 |

平成 23 年度

| 発表者氏名   | 論文タイトル名  | 発表誌名                                   | 巻号        | ページ       | 出版年  |
|---|--|--|-----------|-----------|------|
| Teramoto N, <u>Tani mizu M.</u>   | Validation analysis of Japanese histological classification of breast cancer using the National Summary of Hospital Cancer Registry 2007, Japan  | Cancer Sci                             | 102(8)    | 1597-601  | 2011 |
| Torigoe K, Nakahara K, Rahmadi M, Yoshizawa K, Horiuchi H, Hirayama S, Imai S, Kuzumaki N, Itoh T, Yamashita A, Shakunaga K, Yamasaki M, Nagase H, <u>Matoba M.</u> , Suzuki T, Narita M.                                       | Usefulness of olanzapine as an adjunct to opioid treatment and for the treatment of neuropathic pain.  | issue of Anesthesiology                | 116(1)    | 159-169   | 2012 |
| Narita M, Niikura K, Nanjo-Niikura K, Narita M, Furuya M, Yamashita A, Saeki M, Matsushima Y, Imai S, Shimizu T, Asato M, Kuzumaki N, Okutsu D, Miyoshi K, Suzuki M, Tsukiyama Y, Konno M, Yomiya K, <u>Matoba M.</u> Suzuki T. | Sleep disturbances in a neuropathic pain-like condition in the mouse are associated with altered GABAergic transmission in the cingulate cortex. | PAIN                                   | 152       | 1358-1372 | 2011 |
| Isobe Y, <u>Katai H.</u> et al.   | Gastric cancer treatment in Japan: 2008 annual report of the JGCA nationwide registry.   | Gastric Cancer                         | 14(4)     | 301-316   | 2011 |
| Saka M, <u>Katai H.</u> et al.  | Present and future status of gastric cancer surgery.   | Jpn J Clin Oncol                       | 41(3)     | 307-313   | 2011 |
| Yoshida S, <u>Hirai K.</u> Morita T, Shiozaki M, Miyashita M, Sato K, Tsuneto S, Shima Y.   | Experience with Prognostic Disclosure of Families of Japanese Patients with Cancer   | Journal of Pain and Symptom Management | Mar 41(3) | 594-603   | 2011 |